

2022年2月26日発行

神奈川県イグレンの活動状況を伝える機関紙

神奈川県イグレンニュース〈第226号〉

発行：神奈川県異業種連携協議会（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事 芝 忠 編集：事務局長 愛賢司

〒231-0015 横浜市中区尾上町580 神奈川中小企業センタービル7F

TEL/FAX045-228-7331 <http://www.kanagawa-igren.com>

（目次）

- テクニカルショウヨコハマ 2022 に出展して感じたこと（1頁）

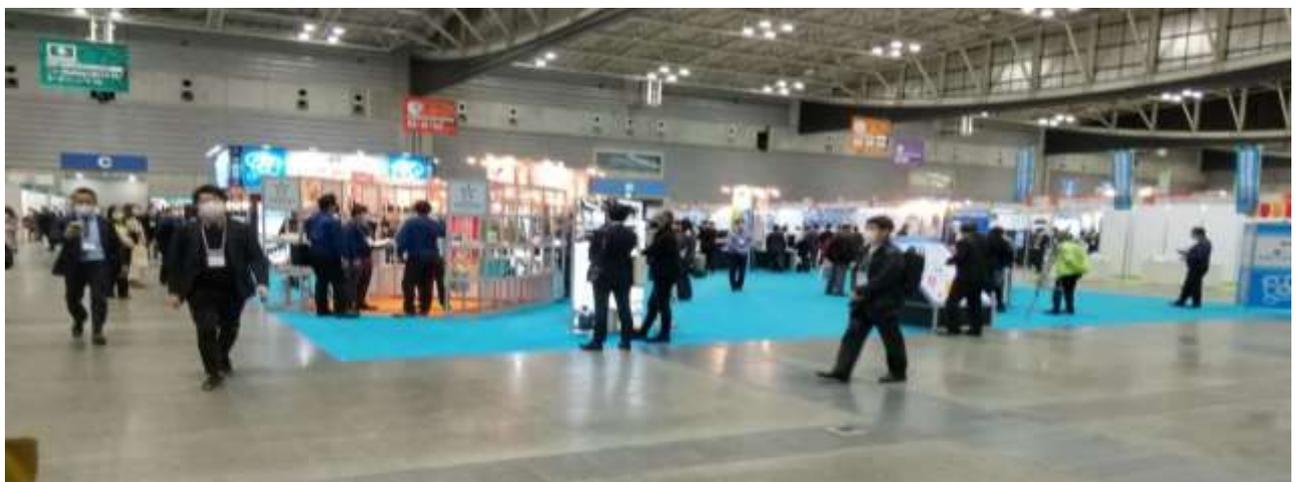
神奈川県異業種連携協議会専務理事 芝 忠

- テクニカルショウ所感（2頁）

神奈川県異業種連携協議会 常務理事 愛賢司

- テクニカルショウヨコハマ 2022 の報告（5頁）

まんてんプロジェクト専務理事 愛恭輔



テクニカルショウヨコハマ 2022 に出展して感じたこと

神奈川県異業種連携協議会
専務理事 芝 忠

2月2～4日の期間で行われた工業技術見本市は、コロナ禍が猛威を振るっている中で敢えて開催されました。昨年度はオンライン展示だけで、全国からアクセスがあったといいますが、やはり実際の展示物を観て手に触れ、そして出展者と直接話をしないとビジネスには繋がらないでしょうし、情報交流の機会としては難点がありました。ことしはリアル展示(通常の)と、オンラインの2本立てで行われましたが、やはりコロナ禍の影響で長野県などは大きなブースを設定しながら出展者の姿は見え、カタログ・名刺・アンケートだけの寂しい展示でした。全体では、464ブースで大幅に減少したわけではありませんが、人の配置がないブースが目立ちました。来場者は通常1日1万人前後ですが、今回は3千人未満で、3日間の合計8,407人ということでした。イグレンでもサンプルやポスター出展予定の参加者がコロナの濃厚接触者となり急遽取りやめとなり対応に少し苦労しました。サンプル展示は尾下紙業株式会社さんに加えて、単独で出展していた株式会社開明製作所さんに自社技術の特長である精密加工品の現物サンプルを提供していただき、また株式会社ハーバーエンジニアリングさんにも急遽加工品を展示してもらいました。ポスター展示は山勝電子工業株式会社・株式会社開明製作所・株式会社ハーバーエンジニアリングの3社にご協力いただき展示ブースの形を整えることができました。またカタログ出展には多数のご協力していただきました。

しかし、全体に「暇」(笑)でしたから、各ブースに立ち寄るとどのブースからも熱心な説明を受け情報収集にはもってこいの場でもありました。加工技術関連では5社で「コロナ禍で仕事が大幅減」の声がきかれましたし、一方仕事が減っていないという1社もありました。イグレンコーナーにも道路関連で公共工事が減少しているので、民需に転換したいので、異業種進出方法を教えて欲しいとか、防弾ガラスのメーカーから地球温暖化対策として一般の家屋のガラスの遮熱対策として素材開発するか、塗装による遮熱対策か、知恵を欲しいという相談や、基板製作で少量・手軽に依頼出来るところを紹介して欲しいとか、当方の看板を見て「元気な異業種交流」を教えて欲しいとか、あるいは筆者の顔を見に来たというお客さん(笑)も大勢いらっしやいました。大変うれしいことで、一所懸命智恵を絞りました。やはり色々な相談事項が眠っていると感じました。また若い経営者が増えており、着実に後継者への承継がなされていることを実感しました。県庁の産業振興課のブースでは、筆者のことを8年前に産学連携で一緒だったという職員から声をかけ

られて、ベンチャー支援の政策を伺いました。展示会場に近い起業支援施設のビルに週3日間詰めているようで、イグレンも中小企業支援課だけでなく、積極的に産業振興課とも連携していく必要があると感じました。

イグレン活動も改めて見直し、存在意義を確認するとともに「しょぼくではいけない。新たな挑戦をしなければ」という決意をした次第です。そういう意味では大いに参考になった展示会でした。



テクニカルショー所感

神奈川県異業種連携協議会
常務理事 愛賢司

今回のテクニカルショーでは、大学関連や他県の展示ブースの減少が見受けられましたが、例年目を引く程広い場所を確保して出展している新潟県の燕商工会議所は、今回も27ブース（全体の5.8%）という大きな規模で参加していました。あるブースで話を伺うと、「燕現地では仕事あまり回っていないが、こういう時だからこそ元気に打って出ようと決めた。来場者は少ないが、じっくりやりとりができてひとつふたつ引き合いに結びつくものもある」とのこと。厳しい中でも手をこまねてはられないという姿勢を強く感じました。



(燕商工会議所展示場風景)

「こう言うは何だけど、物見遊山の人が少ない感じだ。熱心に話を聞いてくれて自社技術をアピールする良い機会になった」とはイグレンブースに近いところで出展していた加工技術関連企業の社長さんの印象です。確かに「情報を得よう」という中身が変わってきている感じがあります。冒頭の芝専務理事が感じた「存在理由」再確認の具体的事例として「異業種連携」の表示に関心を持って来場した団体・企業を紹介します。

【公益社団法人産業雇用安定センター】

1987年に政府の「30万人雇用開発プログラム」の一環として、国と経済・産業団体の協力により、経済変動や企業動向にともなう出向・移籍支援の専門機関として発足した。ハローワーク等の就職斡旋機関との違いは、①企業（主に大企業）に登録してもらい、送出人材と求人希望企業とのマッチングを進める。②斡旋から成約まで無料であること等。再就職・出向に関係する送出者（求職者）は、2016年度は13,453人に対し、2020年度は19,489人で6,036人（44.9%）増。特に電子・電機関連企業、旅行関連企業、デパート関係が多い。

大企業からの求職者を中小企業に紹介するときに一番苦勞するのはマインドチェンジ。賃金要求もそうだが所属大企業の経験に固執する「H電機デハこうだった」「N自動車デハ・・・」という「デハの守」意識を早く払拭してもらうことを重視して研修を実施している。そのためスタッフ全員がキャリアコンサルタントの資格を取っている。大企業の登録が多く中小企業への知名度が圧倒的に低いので知名度向上のために連携できないかという問題意識でイグレンのブースに立ち寄った。今後、事業を紹介できる機会や場を提供してもらえたらありがたい。

【車輛用大型曲げ加工部品の製造企業・営業部長】

今の会社は、新幹線等の車輛部品製造に関わっている優良な中堅企業が取引先なので、現在のところ安定した仕事が確保できている。しかし、変化の速い時代に向かっているという実感があり、このままで良いのかという危機感がある。現在問題になっている電気自動車（EV）に関連した事言えば、昨年5月にマスコミ等でも話題になったが、中国BYD社製EVバスの日本国内での導入が進んでいる。電車の車輛にも生産システムや部品の大きな変化が起きることも予想される。

自分は長く商社マンとして香港・シンガポール・台湾等東南アジアを拠点に、自動車から化学製品までいろいろな商品を手掛けてきた。そのおかげで、国によってモノづくりの特徴や商慣習の違いを観てきたし、多様な業界の人との人間関係も作ってきた。自分の経験だけで言うのも何だが、職人気質の強い経営者の中小企業は、総じて営業力が弱いのではないかと思う。自分が培ってきた経験と人脈を活かして、時代の変化に対応していけるような事業構築を結実させたいという問題意識を持っている。イグレンともそうしたビジネスチャンスに触れる機会を共有出来たら面白いと思う。

他にも新事業展開に強い意識を持った来場者が入会され、異業種連携活動の新しい展開が求められていることを痛感しました。

テクニカルショウヨコハマ 2022 の報告（まんてんプロジェクト）

まんてんプロジェクト専務理事 愛恭輔

第 43 回工業技術見本市のテクニカルショウヨコハマ 2022 が、2 月 2 日(水)から 2 月 4 日(金)までパシフィコで開催されました。新型コロナのオミクロン株の感染の広がりの中、展示を辞退しているブースやカタログ展示のみのブースが見られましたが、情報収集、技術調査などの来場者や出展社企業間の意見交換の場も多く見られました。

「まんてんプロジェクト」では、プロジェクトの取り組みや会員技術の紹介をするために出展しました。ブースでは、「はやぶさⅡ」の模型を展示して歓心を引くとともに、「まんてんプロジェクト」の紹介のパネルや「まんてんプロジェクト」の概要のパンフ、全会員企業の得意技術を記した一覧表と会員企業から希望があったカタログ展示などを行ないました。

来場者には「まんてんプロジェクト」の航空、宇宙分野の取り組みに関して説明を行いました。併せて、幅広い分野の会員の方々から構成されているコンソーシアムであることから、いろいろな課題に対応できることも伝えました。来場者からは、FRP 複合材のバリの出ない工具に関心をもった質問やトラブルシュートへの対応に関する質問がいくつが出されました。

カタログ展示に応募された企業は、(株)アップ総合企画、オルイー(株)、山幸電機(株)、新日産ダイヤモンド工業(株)、大同工機(株)、宝電機工業(株)、プライオリティ(株)、の 7 社でした。各社のカタログは来場した希望者に配布しました。

展示会には「まんてんプロジェクト」会員企業から、愛知産業(株)、(株)開明製作所、川本重工(株)、第一塗装工業(株)、山本ネジ工販(株)の各社が出展していました。なお、今回出展していた厚木市内で部品加工をしている(有)梅木精研から会場で入会の申し込みがありました。



(テクニカルショーヨコハマの案内)



(まんてんプロジェクトのブース)



(ポスター・カタログ展示の様子)

【イグレン出展ご協力企業】

尾下紙業株式会社様 (サンプル・カタログ)
有限会社川田製作所様 (カタログ)
株式会社開明製作所様 (サンプル・ポスター・カタログ)
協立電機工業株式会社様 (カタログ)
宝電機工業株式会社様 (カタログ)
日本アルテック株式会社様 (カタログ)
株式会社ハーバーエンタープライズ様
(サンプル・ポスター・カタログ)
株式会社マエダ様 (カタログ)
山勝電子工業株式会社様 (ポスター・カタログ)
株式会社ユニメーションシステム様 (カタログ)
株式会社トライアス様 (協賛)

深謝申し上げます！